

## 地質調査、単純調査等業務、測量作業C〔検査員用〕

1. 契約番号		〇〇-〇〇-〇〇〇〇				1-1 検査員		検査監 〇〇〇〇						
2. 委託名		〇〇〇〇業務委託〇〇〇〇線その〇〇				平成〇〇年〇月〇〇日								
評価項目	評価の視点	配点 (配点内訳)	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣る	劣る	項目別評価(5段階)	得点	備考				
			5	4	3	2	1							
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	50 <small>・基礎点A=10点 ・加算点B=40点</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業（業務）項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していたか。（満足の度合いで評価する。）</li> <li>・採用された作業（業務）手法の技術的内容は、作業（業務）の目的に適合し適切であったか。</li> <li>・作業（業務）目的に照らし必要な作業（業務）項目が不足無く設定され、作業（業務）項目間の整合も適切であったか。</li> <li>・提案された作業（業務）手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであったか。（注1）</li> </ul>							得点＝基礎点A＋加算点B×（項目別評価計/20）  口頭か文書かを問わず監督員等から指導（間違いの指摘を含む）や助言を受けた場合、以下の評価とする。 ・成果品納入前に受けた場合（やや劣る（2点）） ・成果品納入時以降に受けた場合（劣る（1点））			
				十分な技術力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業（業務）に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていたか。</li> <li>・特記仕様書等に示された当該作業（業務）固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していたか。（測量においては、作業に応じた機器等が配置されていたこともあわせて評価する）</li> <li>・作業（業務）遂行段階において、発生した課題や発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていたか。</li> <li>・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していたか。（注1）</li> </ul>									
					点数の補正 評価の視点項目だけでは評価できない場合、±3点の範囲で補正できる。（但し、100点を超える補正はできない。）									
					小計	100			<b>C②</b>	<b>0</b>				
	コミュニケーション力	説明力・プレゼンテーション力・協調性	100 <small>・基礎点A=20点 ・加算点B=80点</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問に対する確かな回答がなされ、一般論と当該作業（業務）固有の議論が明確に区別されていたか。</li> <li>・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できたか。</li> <li>・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていたか。</li> <li>・説明当事者の説明が説明が十分なされた。説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされたか。</li> </ul>							得点＝基礎点A＋加算点B×（項目別評価計/20）  備考欄は「業務執行技術力」に同じ			
				点数の補正 評価の視点項目だけでは評価できない場合、±3点の範囲で補正できる。（但し、100点を超える補正はできない。）										
				小計	100			<b>C⑧</b>	<b>0</b>					

※表の使用方法・・・該当する項目別評価点（青部）のみ代入すれば自動計算します。

（注1）・・・「委託業務成績評定要領の基本的解釈と運用方法について」の「3. 細部の運用(5) 高度な技術レベルが求められる場合」を参照

## 地質調査、単純調査等業務、測量作業C〔検査員用〕

1. 契約番号		〇〇-〇〇-〇〇〇〇					1-2 検査員		検査監 〇〇〇〇	
2. 委託名		〇〇〇〇業務委託〇〇〇〇線その〇〇					平成〇〇年〇月〇〇日			
評価項目	評価の視点	配点 (配点内訳)	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣る	劣る	項目別評価(5段階)	得点	備考
			5	4	3	2	1			
結果評価	目的の達成度	40 <small>・基礎点A= 8点 ・加算点B=32点</small>	・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施され内容が <b>適切</b> であったか。							得点=基礎点A +加算点B×(項目別評価計/20)
			・作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施され内容が <b>適切</b> であったか。							
			・作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足できる内容のものであったか。(満足の度合いで評価する。)							
			・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い作業(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得られたか。(注1)							
	的確なとりまとめ	30 <small>・基礎点A= 6点 ・加算点B=24点</small>	・設計図書にある検討項目、作業(業務)遂行段階での指示事項を、漏れなく <b>適切</b> に取りまとめているか。							口頭か文書かを問わず監督員等から指導(間違いの指摘を含む)や助言を受けた場合、以下の評価とする。 ・成果品納入前に受けた場合(やや劣る(2点)) ・成果品納入時以降に受けた場合(劣る(1点))
			・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められないか。							
・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすいか。										
ミスの有無	30 <small>・基礎点A=6点 ・加算点B=24点</small>	・チェック方法に努力と工夫が見られた成果品であったか。								
		・成果品の品質に大きく影響しない(簡易に修正できる)表記・計算等のミスも認められなかったか。								
		・誤字・脱字、表記等、軽微なミスも認められなかったか。								
点数の補正			評価の視点項目だけでは評価できない場合、±3点の範囲で補正できる。(但し、100点を超える補正はできない。)							得点欄に直接記入する。
小計		100						<b>C10</b>	0	

※表の使用方法・・・該当する項目別評価点(青部)のみ代入すれば自動計算します。

(注1)・・・「委託業務成績評定要領の基本的解釈と運用方法について」の「3. 細部の運用(5)高度な技術レベルが求められる場合」を参照